

日本地質学会2014年度第2回理事会議事録

日時：2014年9月12日（金）15:00-18:00

会場：宝山ホール 第5会議室
（鹿児島市山下町5番3号）

出席役員 理事（35名）：天野一男 安藤寿男 安間了 井龍康文 ウォリスサイモン 上砂正一 海野 進 緒方信一 亀尾浩司 川端清司 後藤和久 斎藤 眞 榊原正幸 坂口有人 佐々木和彦 佐野弘好 沢田 健 杉田律子 竹内誠 竹下 徹 千代延俊 内藤一樹 中澤 努 奈良正和 原山 智 久田健一 郎 平田大二 廣木義久 星 博幸 保柳康一 松田達生 松田博貴 矢島道子 山本高司 渡部芳夫

オブザーバー 石渡 明

欠席役員理事（13名）：有馬 眞 小山内康人 笠間友博 川辺文久 清川昌一 小嶋 智 菖蒲幸男 高橋正樹 三次徳二 宮田隆夫 向山 栄 山田泰広 山路 敦

監事（2名）：青野道夫 山本正司

その他出席者事務局：橋辺菊恵

*成立要件：理事総数48名の過半数25名 本日の出席者35名で本理事会は成立。

*議決：出席者の過半数18名

*書記2名の選出：後藤理事および亀尾理事が選出された。

報告事項

1. 理事会メール審議（2014/8/5）議決事項の確認、議長より報告

1) 辞任理事の後任選任に関し、臨時総会開催についてのメール審議を行い、全員一致で開催をきめた。開催日は9月13日、鹿児島大学において開催。

2. 執行理事会報告

1) 5月理事会以降、6月、7月、8月執行理事会要点ほか（斎藤常務理事）

2014-6、7、8月の執行理事会議事録に基づき、後ほど議論される点を除いて斎藤常務理事から概略について説明があった。

・今回の大会で、ロンドン地質学会とのシンポジウム開催のため、イギリス側の笹川財団から助成を受けている旨の報告があった。

・国際交流委員会から来年の信州大会でも国際シンポジウムを増やすなどの説明があった。

・次期アイソトープ・放射線研究発表会の運営委員候補者の推薦願いがあった。

・「一家に一枚」ポスターは不採択であったが、来年もチャレンジする旨の説明があった。

・高校地学を巡る最近の動向について、執行理事会で議論した。

・自然史学会連合からの要望書の連名希望については、辞退し、その後、連合としても要望書の提出は取りやめたことについて説明があった。

・鹿児島大会への学术交流協定締結国（タイ、韓国、モンゴル、イギリス）から代表者を招待している旨、説明があった。

・ジオパーク支援委員会の報告があった。新たに、立山黒部（富山）、南紀熊野（和歌山）、天草（熊本）の3地域が認定され、JGN加盟は36地域となった。

・鹿児島大会について文部科学省記者クラブならびに鹿児島政記者クラブにプレスリリース（投げ込み）をした。

3. 理事および委員会等報告

1) 運営財政部会報告（緒方理事）

・会員動静, その他

現在会員数 3,912名。

緒方理事から予算関係について、会員の90%の会費を徴収済みであること、7月段階で1/3程度の支出を行っていることの報告があった。

2) 学術研究部会

・行事委員会報告（竹内理事）

市民公開行事に警報発令時における対応について、すでに対応指針は作成したが、今後さらに大学等の基準を参考に詳細なマニュアル作成を検討予定。鹿児島大会の概要説明、また来年の信州での大会は、大会委員長：公文富士夫、事務局長：保柳康一、巡検準備委員長：原山 智、案内書編集長：小嶋智の各会員が決まったことが報告された。2016年東京大会は、大会委員長：高橋正樹、事務局長：笠間友博、巡検担当：大坪 誠・亀尾浩司（案内書編集）の各会員が決まっている。

3) 編集出版部会

・Island Arc 編集委員会報告（海野理事）

海野理事から編集状況の説明があり、IRの総ページ数は増加し、2009年水準に戻っているが、IPが1程度で伸び悩んでいることが報告された。

・企画出版委員会（保柳理事）

保柳理事から、箱根たんけんマップを増刷したこと、長瀬探検マップの現状（査読→著者戻し）について説明があり、その後続く企画を募集中であることが報告された。そのほか、以前からの企画で滞っている、海洋地質基準の出版見通しや地質用語集についての今後の扱いについての報告があった。

4) 125周年事業準備委員会報告（矢島理事）

→ 審議事項へ

4. その他

1) パブリックコメントへの対応について

井龍会長から、この間に地質学会から提出した3件のパブリックコメントについて説明があった。

- ・研究不正に関するガイドラインのうち、一次データについては次回の理事会で議論を行う予定である旨が示された。
 - ・学会としては今後も、学術的立場からのパブリックコメントを出す方針である。
 - ・なお、出席理事から液状化を始めとして地震を起因とする現象について地質学会としてコメントを出す必要があるという意見があった。
- 2) IGCP：安藤理事
- ・IGCP608（白亜紀アジア西太平洋生態系）：昨年4月に採択され、2017年まで行う。去る9/4-6に早稲田大学で国際会議を行った。参加者84名（外国人参加者は13カ国、39名）。セッションは6つ開催され、巡検では、双葉層群、那珂湊層群および銚子層群の見学を行った。
- 3) 環境地質部会（上砂理事）
- ・地質汚染についての技術研修会の報告があった。
- 4) 理事の辞任届提出（7/15付）について
- ・同日付で石渡理事、高木理事の辞任が成立。現在、理事総数は48名。
 - ・石渡前理事から、辞任および新たに任命予定の原子力規制委員についての挨拶があった。

審議事項

1. 県の石について

井龍会長から現在募集中の県の石についての経過報告、ならびに各県に対するアンケート結果に基づいて説明があった。

- ・8月に募集開始、10月31日〆切り、11月1日から選考開始の予定。ただし、鹿児島県のみ今回の学会開催を記念して先行して選定することとし、執行理事会であらかじめ検討した。

候補としては、岩石：シラス（主に入戸火砕流堆積物）、鉱物菱刈金山の金鉱石、化石：甕島・獅子島の白亜紀動物化石群、とした。

なお、選考対象とする範囲は、岩石（未固結のものも含む）、鉱物（鉱物・鉱石）、化石（必ずしも単一の分類群でなくても良い）であるとしたこと、および今回に関しては鹿児島県関係との事前打ち合わせは行っていないことが説明された。

- ・審議において、地質学的にレッドリストにあがるようなものを参考にする必要があること、各県一つで良いのかなどについての意見が出された。後者については、原則、各県一つにするが、選に漏れたものの扱いなどについては、今後考える方向性が示された。
- ・また、今後の選考方法に関しては10月の執行理事会で議論し、案を作成して、理事会に諮るという方針が示された。
- ・審議の結果、選考範囲、鹿児島県の岩石、鉱物、化石、および今後の選考予定について承認した。

2. 機関リポジトリの問題

井龍会長から表題についての概要説明があった。審議では、地質学会が著作権を保持している論文を逆にリポジトリに挙げるという場合の問題はどうか、法的な解釈はどうかについて疑問が出された。今回の問題に対する当面の対応としては、ニュース誌等で、リポジトリでの公開を先に延ばすことを勧める注意喚起をすることで了承を得た。なお、学会側の対応については、法的な専門家の意見を聞いた上で、12月の理事会で改めて議論することとなった。

3. 125周年記念行事について

矢島理事から委員会報告と審議内容の説明があり、125周年記念事業検討委員会とした委員体制と活動予定については提案の通り承認された。活動内容については、災害等に対する地質学的手法を用いた対応など、地質学（会）の重要性について強調するような事業を行うべきであるという意見があった。委員：矢島道子委員長・天野一男・石渡明・永広昌之・緒方信一・佐々木和彦・佃栄吉・宮下純夫

4. 編集規則類の改正について

山路担当理事に代わり斎藤常務理事から説明があり、以下の規則変更は原案どおり承認された。

- ・「細則3. 出版印刷費用に関する細則」(1)の改正
 - ・「投稿編集出版規則」D. 論文の掲載b~d項の改正
 - ・編集に関する各規則に「本規則（細則）の変更は理事会の承認を得る」の文言を追加する。
- ### 5. 論文著者の貢献の明記について

井龍会長から表題の概要説明があり、地質学雑誌の論文中で著者の役割について明記をすることについて審議が行われた。投稿時に申告させるのはどうか、あるいは明記することを導入したとしても不正防止になるかどうかはわからないなどの意見があった。執行理事会でさらに検討し、改めて議論することとなった。

- 6. 年会開催関係：2017年年会開催地は、四国支部担当で愛媛大学を中心に開催することが承認された。

7. その他

- 1) 2015年度総会開催日、第3回理事会の開催日の決定について

斎藤常務理事から説明があり、下記の通り日程が承認された。

総会 2015年5月23日（土）、第3回理事会 2014年12月6日（土）

- 2) 運営規則の改正

緒方理事から、会費滞納を伴う退会および除籍に関する運営規則の改正について提案説明があり、文言の微修正のうえ、認められた。

- ・運営規則第2章 第5条に6項（退会の手続き関

する項目)を追加

- ・運営規則第2章 第7条4項4号の除籍に関する文言の改正

3) 国際地学オリンピック三重大会への協賛金の拠出について

久田理事から配付資料に基づき、地学オリンピックの概略ならびに三重大会の予算獲得状況に関して説明があった。地質学会としての国際地学オリンピックへの協賛(拠出金)については、執行理事会で具体的に審議することを承認した。併せて、これまでの支援の結果として、オリンピックにて優秀な成績を収めた方の進路についての情報を可能な限り開示することを求めた。

4) 地質災害委員会の人事と今後の方針について

斎藤常務理事から委員会体制および委員会の基本方針について説明があった。委員は支部からと関係部会からの選出となる。

委員会体制および基本方針等について承認された。

委員会委員：斎藤眞委員長(再任)、後藤和久(委員長代理)、川村信人(北海道)、越谷 信(東北)、本田尚正(関東)、野沢竜二郎(中部)、三田村宗樹(近畿)、西山賢一(四国)、奥村晃史(西日本)、黒田登美雄(第四紀)、安藤 伸(応用地質)、木村克己(地域地質)、千葉達朗(火山)、上砂正一(環境地質)

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2014年10月10日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長 榊原正幸
代表理事：会長 井龍康文
以下役員名省略